

# 【子どもアシストセンター紹介編】

## ◎ 相談員・調査員のコラム

「春」

（江口 子どもの権利相談員）

「回復アイテム」

（井上 子どもの権利相談員）

「嫌いな自分」

（大鹿 子どもの権利調査員）

「言葉に宿る魔法の力」

（大友 子どもの権利調査員）

## 第4章 広報・啓発活動



## 相談員のコラム

### 「春」

江口子どもの権利相談員

(在籍期間：R4.4～)

4月になりました。

この冬は、大雪による大きな交通障害もなく雪解けを迎える事ができました。昨年の冬は、地下鉄以外の公共交通機関がマヒしてしまい、自家用車で外出もままならず本当に大変でした。

「雪解け」と言えば、北海道で生まれ育った私にとって、雪とともに前年の汚れを洗い流してくれる、清々しい気持ちにさせてくれるもの。力強く芽吹いた小さな緑をみて、「ああ、春だなあ」と感じます。雪のない地域の方々はどのようなのでしょうか。やはり、桜の芽吹きで春を感じるのでしょうか。

「春」の語源を調べてみると、

- ①「懇る」。田畑を懇る。田植えの季節。
- ②「晴る」。気持ちが晴れる。
- ③「張る」。草木の芽がぷっくりと張る。

この3つの語源から「春」という言葉が表されているそうです。新しい命が芽吹き、気持ちが晴れ、新年度の準備を始める時期という事です。

日本だけではなく、英語の「spring」（和訳：春）も、「跳ねる」、「泉」という意味から来ているそうで、「植物が芽を出す時期」というのが語源になっているそうです。

語源と言えば、この意味を知りたいと思った時、私の時代には辞書、辞典しかありませんでした。分厚い辞典や辞書をあいうえお順に指でたどり、ページを開いていく。一つの事を調べようとして、別のものが目に入ってきて、ついつい読んでしまうという事がよくありました。今では、スマホなどであっという間に検索でき、ピンポイントで情報を得る事ができます。とても便利で効率的ですが、紙をめくって「あった、これこれ」という、ちょっとしたトキメキがなくなったようで、辞書、辞典でものを調べていた私には、少し寂しく、味気ないようにも感じられます。

「いつから辞書を持たせる？」というある調査（小学館、2019年度調べ）で、

1位 辞書を持たせていない 35%

2位 小学1年生 22%

3位 小学3年生 21%

という結果が出たそうです。

みなさんはどうでしょうか。辞書を持っていますか？

自分では持っていないとしても、ご家庭に1冊ほどは昔、誰かが使っていたものがあったりするのではないのでしょうか。見つけたら、是非、開いてみて欲しいと思います。何かを調べる目的がないとしても、そこには新しい発見があるかもしれません。

新学期が始まります。

これまで蓄えてきた力で芽吹き、晴れた気持ちで新たな種をまいていくスタートライン。

子どもには、計り知れないその土壌があり、泉のように湧いてくる興味、好奇心があります。

アシストセンターでは、子どもの持っているその力を、保護者の皆様と共に大切に育てていきたいと思っております。4月は何かと忙しく、落ち着かない時期但也有りますが、お子さんと一緒にちょっと外に出て、「春」探しをしてみてもはどうでしょうか。

---

## 「回復アイテム」

井上子どもの権利相談員  
(在籍期間：R4.4～)

あたたかい陽が降り注ぎ、心地よい春風を感じる季節となりました。

札幌でも、早くに桜が咲きましたね。日に日に育っていく植物を見ていると、寒い冬の間に蓄えた力が、どんどん溢れてきているようにも感じられ、なんだかこちらも元気が出るような、嬉しい気持ちになります。

私たち人間も、エネルギーを蓄える力や、困難を乗り越える力、“回復力”があります。

しかし、今の自分はどこまで頑張ることができて、どれほどの回復力があるのか。日々の自分の調子を把握するのは、結構難しいことではないでしょうか。よくあるゲームのように、自分のHP(体力)を目視することができて、回復アイテムを使用して、即座に元気を取り戻す、便利なシステム。「あれが現実でもできればいいのになぁ…」と時々考えてしまいます。

そんなとき、ゲームのようにはいかなくても、自分なりの“回復アイテム”があると、自身のHPの確認、回復になるのではないのでしょうか。

私にも“回復アイテム”と呼べるものがいくつかあります。

ほんのちょっとの疲れであれば、チョコレートや美味しいお菓子を食べるだけで、元気が出ます。お部屋を整理する、洗濯をすると、目の前の物が片付いたような気がして、すっきりします。近所を散歩して、美味しいパン屋さんを探すのも好きです。海沿いを走るバスやJRに乗って、イヤホンで音楽を聴きながら、海を眺めると、とても気持ちが安らぎます。これが、私の“回復アイテム”のひとつです。

「あのとき、こういうことをして乗り越えたな～」という経験から、“回復アイテム”が増えていきました。

しかし、“回復アイテム”を使っても効果がない、そもそもアイテムを使う気が起きないくらい、ヘトヘトになっているときもあります。場合によっては「季節の変わり目かも」「単に風邪を引いたのだな」と理由がわかり、数日の休息で回復することもあります。

それでも、ひとりで自分と向き合っていると、何がなんだかわからなくなってしまう、そういうときこそ、人と会話をするようにしています。相談することが難しくても、話す相手がいるだけでも安心するし、反対に人の話を聴くことで、意外な解決方法が見えてくることもあります。また、人との関わりで「なんだかいつもと違うな」「気持ちが揺さぶられるな」と感じるときは、自分が疲れているサインだったりもします。そんなときは、アイテムを見直して、休息をとって、また人と話して…と繰り返しています。

みなさんにも“回復アイテム”はありますか？

アイテムが見つからないとき、自分のHPがわからないとき、よければアシストでお話しをしませんか。きっと“回復アイテム”はあなたの中にあるはずです。一緒に“回復アイテム”を探していきましょう！

## 調査員のコラム

### 「嫌いな自分」

大鹿子どもの権利調査員  
(在籍期間：R2.4～)

日頃、相談を受けている中で、「自分を好きになれない」という言葉を耳にすることがあります。

私自身も、「自分のことを好きになる」というのはとっても難しいことに思います。

言うべきでないことを言ってしまうたり、自分の言葉と行動が合っていないかったりすると、自分のことが嫌になってしまうことがあります。自己紹介のときに、嫌いなことは自己紹介です、と言ったりして自虐的なギャグを言っていたこともありました。今後も生きて動いてさえいれば、失敗してしまったり、他の人に迷惑をかけてしまったりすることを避けることはできず、その度に自分のことが嫌いになってしまうかも知れません。

しかしながら、自分のことが嫌いだと思っていると、どんどん自分の嫌な部分にばかり目がいて、もっと自分が嫌になってしまうことに気が付きました。そして、よくよく考えてみると、そもそも自分を好きになるための努力を怠るための言い訳、言い逃れなのかも知れないと思うようにもなりました。

自分が嫌いです、と言って何もしていないよりは、自分を好きになるために、ちょっとずつでも努力して、同じ過ちを繰り返さないように心がけていくことが大事なのかもかもしれません。そして、一生懸命やったけれども成果が出なかった場合や、一人の人をかばおうとして他の人との関係が険悪になってしまった場合でも、自分が自分の行ったことや、自分で決めたことに納得できていれば、後悔することが少ないし、自分を見直すことができるかも知れません。頑張ったことを、自分自身で褒めることが大事なように思います。

もっとも、家庭環境、人間関係やいじめ、大切な人を失ってしまったときなど、自分ではコントロールできないものが自分のことを嫌いになってしまう原因となっているときもあります。自分一人の力ではどうすることも出来ず、動くこともしんどい状況に陥ることもあります。そんなときは、第三者に相談して自分のことを客観的に見直す必要があるかも知れません。是非、子どもアシストセンターに相談していただければと思います。

---

## 「言葉に宿る魔法の力」

大友子どもの権利調査員  
(在籍期間：R5.7～)

春がやってきます。森羅万象、ものみな動く季節へと移り変わるこの時期は、雪に閉ざされた季節からの解放感で心が躍ります。そして、これから巡る春夏秋冬、どんなことが待っているのか、期待感で胸が膨らみます。

春の足音を感じながら、ふと、去年の春は、解放感や期待感に加え、興奮と感動に包まれた特別な春だったことを思い出しました。

特別な春にしてくれたのは、WBC（ワールド・ベースボール・クラシック）での日本チームの戦いでした。心が跳ね上がるようなドラマティックな試合展開の中、人々の心を揺さぶり、記憶に深く刻まれる感動的なシーンがたくさんありました。そして、日本代表に選ばれた選手一人一人のすばらしさや魅力に心を奪われました。

そんな選手たちの中でも特に多くの人の心を鷲掴みにしたのが大谷翔平選手です。私も大谷選手の姿からたくさんの元気や勇気をもらいましたが、特に心に残っているのが、決勝戦前のミーティングでの「憧れるのをやめましょう」という言葉です。

対戦相手のアメリカチームは、プロ野球選手なら誰もが知っている大リーガーぞろいです。日本ですばらしい活躍をしている選手たちといえども、目の前に憧れの超一流選手がいれば平常心でいることは難しいでしょう。心がどこかに飛び、雲の上を歩いているような感じになるかもしれません。

大谷選手はそのようなチームメイトの心の状況を見極め、この言葉を発したのでしょう。そして、舞い上がりそうな選手たちの心を平常に戻し、奮い立たせ、勇気や闘争心を湧きあがらせました。もし、大谷選手の言葉がなかったら決勝戦はどうなっていたでしょうか。

たったひとつの言葉が他の人の心を大きく動かす、そんな言葉の持つ力について改めて考えさせられました。くじけそうなとき、めげてしまいそうなとき、他の人の言葉に励まされ、勇気や力をもらったということは誰もが経験したことがあるのではないのでしょうか。

昨今、SNS 上での誹謗中傷や攻撃など、言葉の負の側面が注目されがちですが、劇的に変化する現代社会だからこそ、言葉の正の側面、誰かを励まし希望を与えるような、言葉に宿る魔法の力を再確認すべきではないかと思うのです。

「だいじょうぶ だいじょうぶ」(文・絵：いとうひろし)という絵本があります。次のような内容です。

幼い「ぼく」が困ったことや怖いことに会って不安になるたび、  
おじいちゃんが「ぼく」の手を握り、おまじないのようにつぶやいた。

「だいじょうぶ　だいじょうぶ」

「ぼく」はその言葉に励まされ、少しずつ強くなって大きくなった。  
だから今度は「ぼく」の番。

病床に横たわるおじいちゃんの手を握り、何度も繰り返すのだ。

「だいじょうぶ　だいじょうぶ」

勇気をくれる、前に進む力をくれる、心を奮い立たせてくれる、背中を押してくれる、気持ちをつないでくれる、心を拓いてくれる、優しく包んでくれる、不安を消し去ってくれる、心を癒してくれる、夢や希望を与えてくれる、孤独感を和らげてくれる……、そんな魔法の力が宿る言葉が満ち溢れる素敵な社会になってほしいと願ってやみません。

さて、今年、大谷選手はどんな言葉を私たちに届けてくれるのでしょうか。そして、どんな感動や力を与えてくれるのでしょうか。春の訪れとともにワクワク感がとまりません。

## 第4章 広報・啓発活動

子どもの権利侵害からの救済にかかる実効性を確保するためには、まず、子どもや保護者、そして子どもが育ち学ぶ施設の職員など、多くの方々に子どもアシストセンターの存在を広く知ってもらうことが重要です。

認知度が高まることにより、子どもアシストセンターにSOSを伝えることができる子どもが増えると考えられることから、実際の相談・救済活動とともに、広報・啓発活動はとても重要であると考えており、さまざまな方法により、子どもアシストセンターの普及・啓発に努めています。

### 1 広報・啓発活動

#### (1) 子どもアシストセンターの広報物

##### 子ども用カード（名刺大）

【対象】小学生・中学生・高校生 【配布時期】5月～6月、10月～11月

↓5～6月配布

↓10～11月配布



##### 大人用カード（名刺大）

【対象】主に大人 【配布時期】随時  
※コンビニ、ドラッグストアの市内店舗、まちづくりセンター等の公共施設に配架



##### 施設用ステッカー 市内の小・中・高校、特別支援学校、児童会館、保育園等

↓小学生用

↓中学生・高校生用

↓大人用



##### 保護者向け広報紙

【対象】

全小中学生の保護者、  
高校、公共施設等

【配布時期】

不定期（年1～2回）  
※令和5年度は12月と3月に発行

##### 保護者向け チラシ

【対象】主に大人

【配布時期】随時

※あしすと出前  
講座の出席者等に配布



## (2) SNSによる広告

## LINE 広告の配信

市内の中高生をターゲットとしてアシストセンターを周知する目的の他、悩みがないときでも、お守り代わりとしてアシストセンターをLINE友だち登録しておくことで、いざというときにいつでも相談できる子どもが増えるよう、LINE広告を実施しました。（配信時期：令和5年8月、令和6年2月）



## (3) 新たに行った広報活動

## ① 障がい児施設へのステッカーの作成及び配布

障がいのある子どもたち自身に、子どもには権利があること、そして権利が侵害された場合には相談場所としてアシストセンターがあることを知ってもらうため、子どもたちの目につきやすいトイレ等に貼ってもらうことを想定したステッカーを新たに作成し、市内の児童発達支援及び放課後児童デイサービス事業所に配布しました。



## ② Tik Tok 広告の配信

アシストの高校生の利用割合が小中学生と比較して低いことから、高校生の相談者数を増やすために、高校生の利用が多く訴求力が高いと考えられるTik Tok 広告を新たな広報として実施しました。（配信時期：令和5年7月、同年9月、令和6年2月、同年3月）



## (4) 出前講座等

## あしすと出前講座（3回実施、86人参加）

家庭教育学級、青少年関係団体など子どもに関わるさまざまな団体やグループなどを対象に、救済委員や調査員が講師となり、子どもの悩みや課題について共に考え話し合います（費用は無料）。

## テーマ

- ・子どもの権利を守るってどんなこと？
- ・子どものSOS～子どもの声が聞こえますか？
- ・相談から見える子どもたち

## あしすと子ども出前講座（19回実施、950人参加）



子どもにとって親しみやすく安心して相談できる機関であることを直接PRするため、市内の児童会館を利用する子どもを対象に、相談員によるペープサート（紙の人形劇）等を使った出前講座を行っています。

## あしすと出前授業（1回実施、96人参加）



子どもの権利に関する理解を深めることを目的に、学校からの依頼により、調査員や相談員が、小・中学校を訪問し、児童・生徒を対象として出前授業を実施しています。

令和5年度は小学校から依頼を受け、「どうしたらいいのかな」というテーマで授業を行いました。

## (4) ホームページ・マスメディア等



## ホームページ

- ◇ 子どものみなさんへ
- ◇ 事例紹介
- ◇ コラム「こんにちは、アシストです」（毎月更新）



## 映像CM

- ◇ サッポロスマイル市政PRコーナー（平成28年3月～継続中）
- ◇ 各区戸籍住民課窓口モニター（11月）
- ◇ 札幌市子ども未来局X（※旧Twitter）（随時）



↑子どものみなさんへ Top 画像  
令和4年8月デザインリニューアル

## 2 制度・活動に関する問合せ・視察・情報交換

### (1) 他の地方公共団体等からの視察

アシストセンターのような子どもの権利救済機関を置く自治体は全国でもまだ多くなく、特にこれからの設置を検討中である他の地方公共団体等から視察の申し込みがあります。令和5年度は、5件25名の方が視察に訪れました。

主な問い合わせ内容は、子どもアシストセンターの設置の経緯や人員体制、運営状況、学校その他の関係機関との連携などです。

| 来所日時     | 地方公共団体名 | 来所者    | 人数  |
|----------|---------|--------|-----|
| 令和5年8月8日 | 東京都北区   | 区議会議員  | 10名 |
| 8月10日    | 沖縄県宮古島市 | 市議会議員  | 3名  |
| 8月24日    | 愛媛県今治市  | 市議会議員  | 7名  |
| 9月28日    | 熊本県熊本市  | 子ども局職員 | 4名  |
| 11月24日   | 東洋大学    | 大学教員   | 1名  |

